



第3回石垣島湘南国際 ドキュメンタリー 映画祭

3th ISHIGAKI · SHONAN INTERNATIONAL
DOCUMENTARY FILM FESTIVAL

2024/2/10 (Sat) —12 (Mon)
マゼラン湘南佐島会場 開場10時～
入場無料 (コーヒー無料)



主催：石垣島湘南国際ドキュメンタリー映画祭実行委員会

後援：横須賀市、横須賀市教育委員会

NPO法人KANATAN

座席の予約はマゼラン湘南佐島

(電話) 046-855-3071まで

映画祭公式サイト：

<https://www.nagashima-kazuyoshi.com/>



長編7作品、短編14、全21作品!!

みんなで観て

一緒に決める観客賞

いろんな世代の方が一緒に鑑賞して交流を
深めることにこの映画祭の意味があります。
観客賞も鑑賞者全員の票をもとに決定されます。

最終審査委員



長島一由
映画監督
元逗子市長



筒井武文
映画監督
東京藝大院教授



土屋敏男
映画監督
日テレ社外アドバイザー

映画祭上映プログラム 長編部門



2月10日は短編部門、11日、12日は長編部門。
詳しいプログラムは右記QRコードから。



今のほうがその続き

監督：今井いおり 一般部門

10時30分ー12時20分 (2月11日)

大阪府吹田市千里山を舞台に、恩師の学生寮を再生させようとする教え子たちの奮闘とその出会いから紡がれる青年の再出発を描いたドキュメンタリー映画。監督は東京ドキュメンタリー映画祭グランプリ受賞歴あり。



紙の人びと Ikazaki Washi Craftman

監督：Ko-ki Karasudani 一般部門

12時40分ー13時45分 (2月11日)

愛媛県の南予地方、内子町。昔ながらの製法で「大洲和紙」をつくる人たちがいる。世代交代、和紙工場の経営難。多くの課題を抱えつつも、フランス技師とのコラボで活路を探り始めた記録。2023年 愛顔感動ものがたり映像化コンテスト入賞「願い原作願いの横断幕」。



HOPE of TANZANIA

監督：中島祥太 国際コンペ部門

15時ー16時10分 (2月11日)

モバイルサービスを活用し、「リープフロッグ現象」をタンザニアで起こす3つの日本企業にご協力を頂き、タンザニアの暮らしや最新のテクノロジー、スタートアップビジネスの奮闘を描いた。担当した広告作品がACCのファイナリストに残る。海外ドラマや邦画、またCMやMVの制作に関わる。



ロマンチック金銭感覚

監督：緑茶麻悠、佐伯龍蔵 一般部門

16時30分ー18時30分 (2月11日)

児童文学家のミヒヤエル・エンデが最後に望んでいたエイジングマネー（自然に還るお金）をヒントに、日本でそれを実践している人々やコミュニティを取材し映画化。誰も見たことがないフィクションとドキュメンタリーが融合した作品に。

2023東京ドキュメンタリー映画祭長編部門コンペティション準グランプリ作品。



木組みの家 阿保昭則の家づくり

監督：上田謙太郎 一般部門

10時30分ー12時5分 (2月12日)

様々な新材が流通する現代で、大工棟梁の阿保昭則は自然素材と手仕事にこだわり続けている。阿保が何を考え、いかに家づくりをしているか。「木組みの家」ができるまでーデザインから竣工までを追ったドキュメンタリー作品。愛知大学文学部メディア芸術専攻准教授。



取り残された人々：日本におけるシングルマザーの苦境

監督：Rionne McAvoy 国際コンペ部門

12時25分ー13時50分 (2月12日)

戦後、短期で急成長を遂げ経済的に豊かになった日本だからこそ起きてしまった「隠された貧困」。今まで描かれなかったシングルマザーの苦悩を色々な角度から取材し、人々が気づかなかった不平等な社会的背景の原因を紐解いてゆく。オーストラリアのゴールドコースト出身のドキュメンタリー映画監督。



FINDING HER BEAT 監督：Dawn Mikkelsen & Keri Pickett

国際コンペ部門 15時5分ー16時40分

和太鼓の名手とミネソタ州出身の韓国人養子が、何世紀にもわたって女性立ち入り禁止だった和太鼓を演奏するため、大胆にも女性だけの一座を結成する。一行は雪深いセントポールでの歴史的な公演に向けて困難に立ち向かう。監督のDawn Mikkelsenは、米国エミー賞受賞経験のあるプロデューサー。

母親は社会から切り離され、
孤立しがちです

映画祭上映プログラム 短編部門



2月10日は短編部門、11日、12日は長編部門。
詳しいプログラムは右記QRコードから。



TACYON 2023 ドキュメンタリー映像

監督：竹山元貴 一般部門

10時30分-10時45分

コロナで4年ぶりの開催となった「よさこい」に取り組む高知市のチーム「TACYON」に密着取材。よさこいに懸ける想いやチームの歴史について話を聞く共に、よさこい祭りに向けて練習する踊り子や関係者に密着して活動を追った。



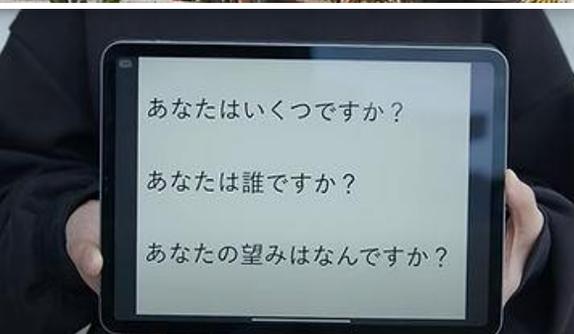
今村先生、今日も行く一島の訪問診療日記2023春

監督：床田和隆 ロケーション作品部門、シニア部門

10時45分 - 11時5分

石垣島で訪問診療を専門にする内科医の今村昌幹医師の物語。石垣島のある八重山地方の医療は全国的には後れをとっていると言われていたが、今村先生はお年寄りを大事にする島の風習は世界でもトップを走ると胸を張る。

65歳監督、シニア部門、ロケーション部門ノミネート。



双つとない場所

監督：小池悠補 国内学生A部門

11時5分-11時20分

原発事故の影響で2022年まで「人口0人」だった双葉町。避難指示解除で震災以降初めて人が住めるようになる。大きなターニングポイントのタイミングで、双葉町にゆかりのある人総勢15人にインタビューを行った。

あえて、インサートを挿入しない実験作。

東京藝術大学映像研究科 在学中。



平賀源内の残したもの

監督：広瀬正裕 シニア部門

11時20分-11時35分

故郷をふりかえったとき、平賀源内に心を惹かれた。江戸時代のエレキテルが有名で、医者、地質学者、画家、浄瑠璃作家等と多才な偉人だが、今もさぬぎに根付く「源内焼き」にフォーカスした。

香川県さぬぎ市出身75歳。シニア部門ノミネート作品。



Home

監督：辻昌希 村上翔哉 国内学生B部門

11時55分-12時15分

ウクライナへのロシアによる侵攻。ニュースでの報道も少なくなった今、私たちに出来ることは一体何か。日本で生きるウクライナ避難民と、彼女たちに関わる人々、そして中高生の生声を記録した作品。

三田国際学園高等学校の1年生 Teens Docs所属メンバー作品。



海辺のころ

監督：木寺智裕 一般部門

12時15分-12時30分

私が今まで関わってきた人の中に、ひめゆりに行き、考え方が変わったひとがいた。事実をベースにした会話を通して、多くの人が戦争を知り、いまの平和は戦争の上になり立っていることに気づく。

監督は、病院や訪問看護に努める言語聴覚士。現在は沖縄県那覇市に在住。



夏空と銀色のブローチ

監督：江島香希 ロケーション作品部門

12時30分-12時50分

首藤少年にとって飛行機は、鳥のように空を飛ぶ「夢の乗り物」だった。しかし福岡大空襲のトラウマは、飛行機を人殺しの「悪夢の兵器」へと変貌させてしまう。戦後、彼はその悪夢を子供時代の夢へと変えるため、人を殺さない「飛行機」を描くことを決意する。ロケーション部門ノミネート作品。

監督は、東京藝大院を修了後、映画批評を学ぶため渡仏。

映画祭上映プログラム 短編部門



2月10日は短編部門、11日、12日は長編部門。
詳しいプログラムは右記QRコードから。



みんなの想いを一冊に

監督：岡田文章 一般部門

12時50分～13時

「あの名物おばあちゃんの店が、ついに幕を降ろすらしい。」口は悪いけどあったかい。店主・幸恵さんに救われた過去を持ちながらも、感謝の気持ちを伝えられずにいたユカは、オンラインで常連客たちから寄せ書きを募るアイデアを思いつく。

監督は博報堂にて映像演出や脚本執筆などもこなすコンテンツクリエイターとして活動。



Beige Scene

監督：吉田泉 シニア部門

14時15分～14時35分

石川さんは自由に生きる独り暮らしの女性だけれど、ちょっとだけ人とは違うことがあります。

彼女のささやかな日々は、地球上に生きる一人ひとりに人生---語るべき物語があるのだと、私たちに教えてくれているような気がします。監督は2022年MBT映画祭（難病支援映画祭）佳作。



40時間の帰省

監督：鈴木麻美 一般部門

14時35分～14時55分

生まれは北海道、沖縄が第二の故郷。出産・コロナ渦を機に沖縄へなかなか戻れず、沖縄が自分から遠くなり、自身のアイデンティティがぼやけ始めた。何かを求める心に従ってiPhone片手に一人沖縄へ、セルフドキュメンタリー。

監督は、テレビ番組のプロデューサー。



My family's soul food for the world.

監督：谷口北斗 一般部門

14時55分～15時15分

からあげ178（いなば）。普通のママがつくる家族のソウルフードは地域に愛されて10周年。しかし、そんな家族の唐揚げも娘の結婚を機に大きな決断を迫られる。唐揚げという日本の家庭料理が”あるきっかけ”を境に文化の壁を越えていく。

監督は、第一回石垣島湘南国際ドキュメンタリー映画祭一般部門にて大賞を受賞。



幸せを探して～猫を守る人々～

監督：出川遥加 国内学生A部門

15時15分～15時30分

保護猫カフェ「ニャンとぴあ」では、飼育放棄や病気になった野良猫を世話している。背景を探ると無原則なペット販売や、飼い主の経済的な問題、そして命に向き合うことへの無責任さが見えてきた。

監督は、羽衣国際大学 現代社会学部 放送メディア・映像学科1年。



youth

監督：中村政人 ロケーション作品部門、シニア部門

15時30分～15時45分

若い頃には貧しくてやりたくてもできなかった野球。でも、3番目の孫の友輝に自分の想いの一端を託すことができた。

おじちゃんと孫の夢と挫折のドキュメント。

監督は、鹿児島県出身79歳。エンジニアとして働く傍ら、長年、撮り貯めた家族のホームビデオを映画にしたいと思ってきた。



移りゆく旅路 | カザフ遊牧民を追って

監督：磯部和弥 国際コンペ部門

15時45分～16時

アルタイ山脈の麓にはカザフ系の遊牧民。砂漠化の影響で都市に移住する人々も多い中、伝統的な遊牧生活を続ける人々はどう感じて生きているのか。彼らと共に生活をし現状を探った。

監督は、「肩越しに見る旅」をコンセプトに、ただ土地を訪れる観光ではなく、現地の人々と共に生活し内側から社会を観察しながら暮らしている。